

公益社団法人 地盤工学会 室内試験規格・基準委員会

「平成 23 年度 第 1 回 議事録」

日時	平成 23 年 7 月 7 日 (木) 13:30~15:00		場所	神戸国際会議場 会議室	
委員長	古関 潤一	○	幹事	吉嶺 充俊	×
幹事	畠山 正則	○	委員	浅古 勝久	×
委員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	小口 秀俊	○
委員(WG2)	乾 徹	○	委員(WG3,10)	藤原 照幸	○
委員(WG4)	塚本 良道	×	委員(WG5)	高木 宗男	×
委員(WG6)	椋木 俊文	×	委員(WG12)	岡田 哲実	○

○:出席 ☆:電子会議出席 ◎:代理出席 ×:欠席

配布資料

資料番号なし:平成 23 年度 第 1 回 室内試験規格・基準委員会 議題書

資料 23-1-1:室内試験規格・基準委員会における関連検討状況

資料 23-1-2:基準部規程

資料 23-1-3:室内試験規格・基準委員会名簿

資料 23-1-4:「岩石の繰返し強度試験方法基準化 WG」名簿

資料 23-1-5:平成 23 年度予算書

資料 23-1-6(1):回答書(粒度試験結果に関する質問)

資料 23-1-6(2):回答書(圧密試験に関する質問)

資料 23-1-6(3):回答書(土の陽イオン交換容量(CEC)に関する質問)

資料 23-1-7:基準部会議事録

【 議 事 】

1) 配布資料の確認

- ・ 配布資料の確認。以下の資料が当日の追加資料として配布された。

「追加配布資料」

- ・ 23-1-8 岩石の動的強度試験方法基準化 WG スケジュール案
- ・ 23-1-9(1) ベンダーエレメント法の規準案に対する意見検討結果の報告
- ・ 23-1-9(2) JGS 0544 「ベンダーエレメント法による土のせん断波速度測定方法」

2) 「基準部規程」のおさらいと当該委員会の役割について再確認 資料 23-1-2

- ・ 室内試験規格・基準委員会の役割について関連する規程を基に再確認した。
- ・ 基準化を進めている二つの試験法について制定方針と照合し、規程に沿った内容であることを確認した。
- ・ 「岩石の動的強度試験方法基準化検討報告書」の WEB 上で公表する方法について検討することとした。(2011/07/19 HP に掲載済みー室内試験規格・基準委員会, WG12)
- ・ ベンダーエレメントの基準化にともない、データシート of 原案作成について議論した。デ

シート作成にあたっては、試験方法に精通したメンバーで原案を作成することが理想である旨の意見があり、WG内で検討することとした。

### 3) 今年度の活動方針の確認

資料 23-1-1

- ・ DS-9「土質試験結果の精度・ばらつきを考える」で発表した資料(「室内試験規格・基準委員会における関連検討状況」)が紹介され、今年度の活動方針について議論した。
- ・ 前回(2009年)のJIS規格改訂時に審議委員会からの指摘(例えば、一軸圧縮試験方法に関する指摘では、試験回数の明記がある)は、次期改訂時に見直して必要な対応をとることが課題として残っていた。
- ・ 検討した結果、コンクリートの圧縮試験方法と土の一軸圧縮試験方法を比較したところ、審議会で指摘されたような、試験回数に関する記述に違いが無いことを確認した(コンクリートの圧縮試験方法にも試験回数については規定されていなかった)。しかし、ユーザーの心情を考えれば、各機関の指針等の動向を調査して、規格本文や解説に明確な記述が必要との方向性が出された。一方、有効数字と数値の丸め方については、コンクリートの圧縮試験方法を参考に、次回改訂時には考慮する必要があることも報告された。
- ・ レディーミクストコンクリート(JIS A 5308)では、「3回の試験回数の平均」と規定されているので、固化改良土のような試験の基準作成の参考になるとの報告がなされた。
- ・ 今年度の活動方針として、規格・基準に関する“5年後の見直し”に対す改訂版の取り扱い方針について継続審議とすることとした。
- ・ 規格・基準の英文化については、昨年できなかったもので、今年度予算が付くようであれば実施することを再確認した。

### 4) 室内試験規格・基準委員会名簿の確認

資料 23-1-3

- ・ 今年度の委員会名簿の確認
- ・ 修正があるようであれば幹事まで連絡する。

### 5) 「岩石の繰返し強度試験方法基準化WG」名簿

資料 23-1-4

- ・ 基準化WGメンバーについては、基準部会で承認された旨の報告がされた。
- ・ 基準化検討WGメンバーに加え、新しく4名の委員が加わった旨の報告がなされた。

### 6) 動的強度WGスケジュール案

資料 23-1-8

- ・ 2011年～2013年3月までのスケジュール案の説明がなされた。
- ・ 今年度内に基準案の公示を目標とした、ぎりぎりの工程である旨の説明がなされた。

### 7) 今年度(23年度)の委員会予算について

資料 23-1-5

- ・ 今年度の予算額は昨年とほぼ同額であるとの報告があった。
- ・ 今年度は、二つのWG(ベンダーの解説執筆WG、岩石の動的試験基準化WG)が活動する。現状の会議等の開催計画では、予算内に収まりそうであるが、3回目以降の開催にあたっては、幹事まで連絡してもらうこととした。
- ・ 予算の執行状況は、委員会開催時に逐次報告することとした。

### 8) 会員からの質問への対応

資料 23-1-6(1), (2), (3)

- ・ 前回の委員会以降にあった、三つの質問とそれぞれの回答結果について報告された。
- ・ 会員からの質問と回答については、単に質問者に返すことで終わらせないで、ホームページ等に掲載する案が出され、事務局に確認することとした。  
(確認結果一室内試験規格・基準委員会のHPに掲載は可能との回答を得る)

## 9) 基準部会報告

資料 23-1-7

- ・ 表記法検討委員会の中に「地盤工学用語の JIS 化作成 WG」が立ち上がる旨の報告がされた。
- ・ この委員会が立ち上がる背景には、前回(2009)の JIS 規格の改定時に審議委員会から「基本的な用語をまとめて規格化すべき」との指摘を受けたため、との報告がされた。
- ・ 室内試験規格・基準委員会からは、吉嶺幹事が委員として参加されることが報告された。
- ・ 調査法の改定に関して、現在、基準の改訂作業が精力的に行われている旨の報告がされた。

## 10) ベンダーエレメント法の基準公示に関する意見への対応

資料 23-1-9(1), (2)

- ・ 会員からの意見とそれに対する対応結果について報告がなされた。
- ・ 意見に対してWG内で検討した結果、指摘されているような課題は残されているものの、総合的に判断した結果、まずは試験方法を統一する必要があると判断し、基準本文は変えないものとした、との報告がなされた。
- ・ ただし、いただいた意見の内容も含めて、解説には多くの知見を盛り込み、詳しく記述することとして対応する旨の報告がなされた
- ・ WG から提出された報告書と基準案が承認され、次回基準部会に挙げることとした。

## 11) 次回委員会

- ・ 改めて予定確認をすることとした(除く火曜, 木曜)。

以上